

芸備線再構築協議会幹事会 実施報告

令和7年11月6日
国土交通省 中国運輸局

○第6回芸備線再構築協議会幹事会（概要）

日時：令和7年10月10日（金）
場所：TKPガーデンシティ岡山
議事：以下のとおり

1. 芸備線再構築に関する実証事業（実証事業A）	鉄道の増便・ダイヤ変更や、これに合わせて行う、地域の取組支援、二次交通の運行、列車の観光コンテンツ化等の施策の進捗状況について報告 ・このうち、鉄道の増便について、来年3月まで、週1回の増便について構成員間で一致
2. 芸備線再構築に関するより専門的な分析等調査事業（新調査事業）	乗込調査やアンケート調査の途中経過、他地域事例調査の進め方、地域経済効果試算の精緻化・検証の進め方について報告 ・このうち、事例調査において、鉄道ならではの価値を抽出するため、また来年の議論も見据えるため、他の交通モードの事例も調査していく方向性で一致 ・また、他モードの地域経済効果試算の必要性について議論を進めたい旨を事務局から提案し、構成員間で一致

今後の進め方：11月に第5回協議会を開催して、実証事業A・新調査事業を中間報告するとともに、他モードの地域経済効果試算の必要性について議論

第6回幹事会(令和7年10月10日) 主な発言

岡山県	・ 冬期増便について、要望に真摯に対応していただき感謝 ・ 最終便の運休代替としてタクシー救済を行う際、乗客の積み残しがないようにしてほしい ・ 他モード事例の収集は、最適な交通モードを議論していく上で必要な調査 ・ 最適な交通モードを検討するため、他モードにおける費用対効果を明確に示し、フェーズ B にシフトすることに異論はなく、方針作成に向けた 3 年というスケジュールを考えると、次の協議会で他モードの地域経済効果試算について議論する必要性はある
広島県	・ 冬期増便について、増便継続の実現に向けて真摯に調整を行っていただき感謝 ・ 現在の運行を延長する形での延長を希望していたが、冬期は人の往来が少なく、春以降の取組に向けた準備を地域で進めるため、提案を受け入れたい ・ 増便延長により、12月からの実証事業の取組の全体像について早期に整理していく必要 ・ 他モードとの比較検証を行う実証事業 B に入るまでに「全国的な鉄道ネットワークの在り方」に係る国の考え方を明らかにしてほしい
新見市	・ 冬期増便について、週 1 回の増便を実施するため、運転手や列車について対応いただき感謝 ・ 増便に合わせた二次交通の運行に向けて、運行事業者と調整していく ・ 他モードの事例の考察は、今後の議論を進めていく上で必要 ・ 実証事業 B の交通モードを含めて、内容を検討していく上でも、次の協議会で地域経済効果の試算について議論を行う必要
庄原市	・ 冬期増便について、週 1 回の運行でかつ三次駅で乗り継ぐなど、現在の運用と比較して利便性が低下するが、制約がある中でリソースを捻出したものであり、途切れることなく引き続き運行することを最優先するため、提案を受け入れたい ・ 増便延長により、実証事業の内容を組み立て直す必要 ・ 第 5 回幹事会において示された全体スケジュール案について、早期の協議・整理をお願いしたい ・ 来年 4 月以降の増便ダイヤの運行についても引き続き検討してほしい

第6回幹事会(令和7年10月10日) 主な発言

神田先生	・協議会が1年半経過しても、沿線自治体が、交通を生かしながらどのようなまちづくりを行っていきたいのかがまだ見えていない ・目的（まちづくり）と手段（交通）の議論をセットで行う必要があるが、手段が先行してしまっている ・集客を目的にするのも重要だが、沿線自治体は、中山間地域で非常に厳しい状況に直面している中でどのようなまちづくりを目指すのかを明らかにする必要
JR西日本	・冬期増便について、乗務員の労働時間実績、休暇取得状況などを踏まえてリソースを精査した結果、来年3月まで、週1回であれば、昼間の列車増便に対応できる見通しが立った ・実証事業の実施そのものに一生懸命になってしまうが、調査事業や実証事業で得られたデータをこの先の議論にどのように生かしていくかが大切な視点である

具体的内容

【名称】

芸備線再構築に関する実証事業（実証事業A）

【目的】

昨年度の調査事業Aで提案された、実証事業Aで取り組むことが望ましいとされた施策等を実施し、調査事業Aで試算した地域経済効果の発現を最大化するとともに、その結果を踏まえ調査事業Aの地域経済効果の試算が妥当であったかどうかを検証する

【施策の概要】

1. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化
2. 列車による観光コンテンツの形成等
 - ① 列車の観光コンテンツ化
 - ② 観光商品・旅行商品の提供
 - ③ 駅周辺のにぎわい創出
 - ④ 観光ツアー造成
 - ⑤ 企画乗車券等の設定
3. 広域的な周遊コンテンツとの連携
4. 地域拠点としての駅舎活用・産業拠点形成（机上検証）
5. 芸備線や駅周辺施設を活用した移住体験の提供による定住促進
6. 既存事業の強化・支援

【受託者】（1.を除く）

株式会社JTB広島支店（契約期間：令和7年7月18日～令和8年3月31日）

具体的内容

1. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化

①芸備線の増便・ダイヤ変更

○臨時列車運行※（7月19日～11月24日の土休日）

- ・新見～備後落合間

新 見 10:24発 → 備後落合 11:57着
備後落合 12:20発 → 新 見 13:58着
- ・広島～備後落合間

広 島 09:07発 → 備後落合 11:54着
備後落合 12:08発 → 広 島 15:09着

○ダイヤ変更・運行延長（8月21日～12月23日の平日（2学期））

- （前）三次 19:29発 → 備後庄原 20:05着
（後）三次 18:41発 → 備後庄原 19:16発 → 備後落合 20:01着

○ダイヤ変更（10月14日～）

- ・下り

（前）新見 18:20発 → 備後落合 19:46着
（後）新見 18:51発 → 備後落合 20:18着
（前）新見 21:53発 → 東 城 22:29着
（後）新見 22:28発 → 東 城 23:04着
- ・上り

（前）東 城 05:22発 → 新見 06:03着
（後）東 城 06:19発 → 新見 06:55着
（前）東 城 17:04発 → 新見 17:39着
（後）東 城 17:20発 → 新見 17:56着
（前）備後落合 20:10発 → 新見 21:36着
（後）備後落合 20:40発 → 新見 22:09着

凡 例
（前）…ダイヤ変更前 発着時刻
（後）…ダイヤ変更後 発着時刻

※第5回幹事会で、来年3月まで週1回の増便について構成員間で一致

(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車・二次交通利用状況調査の実施

列車は、①休日全列車調査、②平日全列車調査、③休日日中2往復調査、
④平日早朝・夜間調査の4種類、二次交通は休日全実証便調査の1種類を行う

	鉄道				二次交通
	①休日全列車	②平日全列車	③休日日中	④平日早朝・夜間	休日全実証便
ねらい	利用者数の 対昨年度比較、 R6年度概算項目の 精緻化	利用者数の 対昨年度比較、 R6年度概算項目の 精緻化	増便による観光 (・日常) 流動の 変化を深掘り	ダイヤ変更・ 延長運転による日常 流動の変化を深掘り	増便による観光 (・日常) 流動の 変化を深掘り
対象便	備後庄原駅～ 備中神代駅間 全列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 全列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 10～15時台の列車	備後庄原駅～ 備中神代駅間 6時台、17～23時台 の列車	実証運行の全便
実施日	9/20(土)-9/21(日)	9/17(水)-9/18(木)	8/30(土)-8/31(日) 10月のいずれか2日間 11月のいずれか2日間	10月のいずれか3日間 11月のいずれか3日間	エリアによって異なる ※8日間実施

※悪天候等の場合は予備日に順延させる
※10月、11月の日程は調整中

(1) 調査事業Aから派生する追加的な調査等 | 列車調査集計

列車調査(8月、9月分)では、増便の利用があった一方で、乗り通す人が多く消費金額が低いという課題も見られた。今後、実証Aの本格化に伴い、傾向が変化するかを検証していく

アンケート結果

今後の調査方針

利用人数

8月、9月の調査対象列車では、1便あたり平均16名が乗車
特に、広島方面からの直通快速列車は68名と
一定の利用が見られる

利用の傾向
(価値)

青春18きっぷ等の企画券利用者や
「乗車自体が目的」と回答する方が多くみられ、
鉄道ならではの誘客につながっていることが確認された

利用の傾向
(課題)

「乗車自体が目的」であるがゆえに、
途中下車をしない人が多く、
消費金額が少ない傾向が見られた



青春18きっぷ期間が終了し、かつ
実証Aの本格化も進む10月以降の
状況を引き続き調査していく

(2) まちづくり・観光との連携による地域社会や公共交通の持続可能性の調査
多様な可能性を洗い出せるように、幅広い考え方を収集する

事例調査候補 (例)

分類	事例	交通モード×事業構造	取組内容
鉄道事業の 機能強化および 再構築事例	南阿蘇鉄道	鉄道(普通鉄道)×上下分離	他路線への直通化、新たな観光列車の導入等を実施（上下分離を併せて実施）
	一畑電車	鉄道(普通鉄道)×みなし上下分離	利便性向上のために新車導入、利用補助等を実施（みなし上下分離を併せて実施）
	JR城端線・氷見線	鉄道(普通鉄道)×三セク化 ※議論過程でLRT化も検討	新車導入、増発等を実施予定 （三セク化を併せて実施）
	ひたちなか海浜鉄道	鉄道(普通鉄道)×三セク化	教育施設の整備に合わせた新駅設置等を実施 （三セク化を併せて実施）
	阿佐海岸鉄道	鉄道(DMV)	世界初の営業DMV路線として、 観光と連携した取組を実施
鉄道とまちづくり・ 観光の連携を 図った事例	JR内房線・江見駅	鉄道(普通鉄道)×郵便局	駅舎と郵便局を合築化
	JR日南線・北郷駅	鉄道(普通鉄道)×商業施設	駅周辺に道の駅を新設、バス停を設置し 交通結節点としても機能
	京都丹後鉄道	鉄道(普通鉄道)×インバウンド誘客	インバウンド向けの企画乗車券、観光商品等を 導入
	長門湯本温泉	鉄道(普通鉄道)・バス ×観光まちづくり会社	まちづくり会社が観光アクセスの改善にも参画
旧三江線	旧三江線	バス(定時定路線、デマンド) ×自治体(+JR参画)	鉄道を代替バスに転換し、その後さらに 一部路線をデマンドバスに転換

(3) 総合的な分析の実施

(1) で実施中のアンケート結果等も踏まえて、昨年度検討した「費用および定量的価値」について、試算の精緻化や実証Aの効果検証を行うことを目指す

「費用および定量的価値」の精緻化および効果検証の考え方 ※グラフは昨年度調査報告書より抜粋

費用の精緻化・検証

定量的価値の精緻化・検証

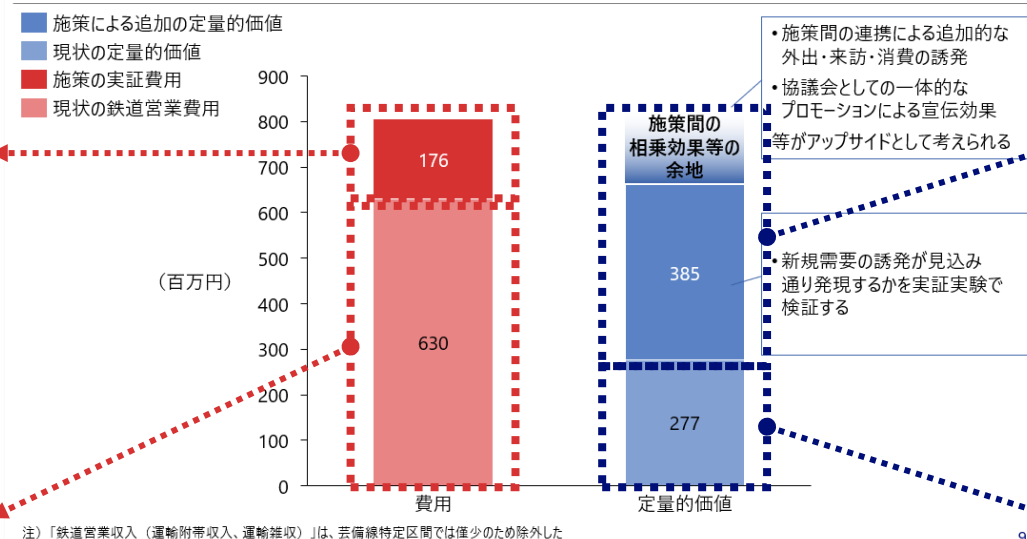
1

実証Aの対象施策に
要する費用を精緻化

2

現状の営業費用の精査
※2024年度データへの更新等

芸備線特定区間の費用および定量的価値



3

実証A期間中の各種
取組による利用増加、
消費増加等の効果検証
※アンケート調査、人数カウント、
地域からのデータ提供等
もとに試算

4

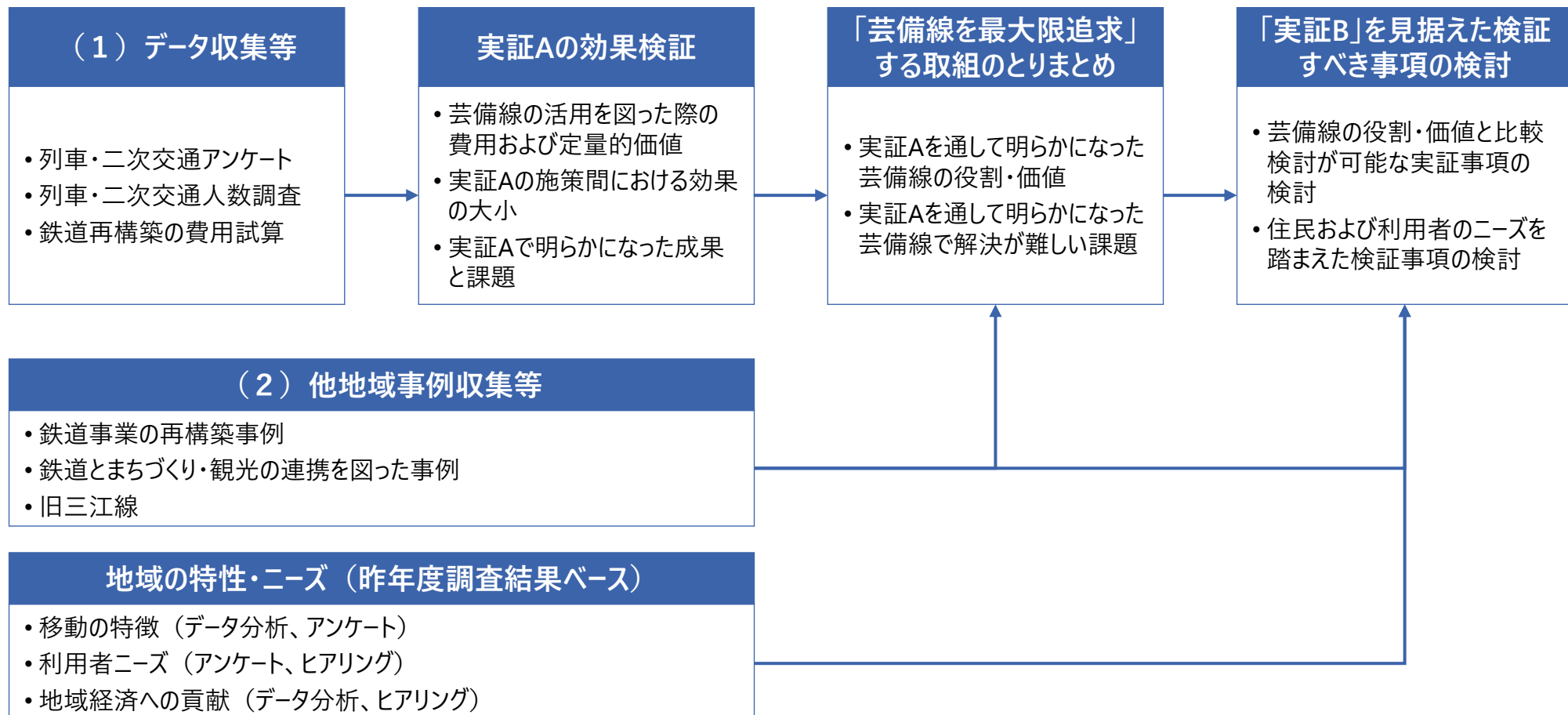
「現状の定量的価値」
の精緻化

※列車アンケート調査を通して、
利用者の属性や消費額等の
データを更新

(3) 総合的な分析の実施

実証Aの効果検証と他地域事例を踏まえて、「芸備線を最大限追求」する取組をとりまとめる
とともに、改めて地域の特性・ニーズも振り返りながら「実証B」の検証事項を整理する

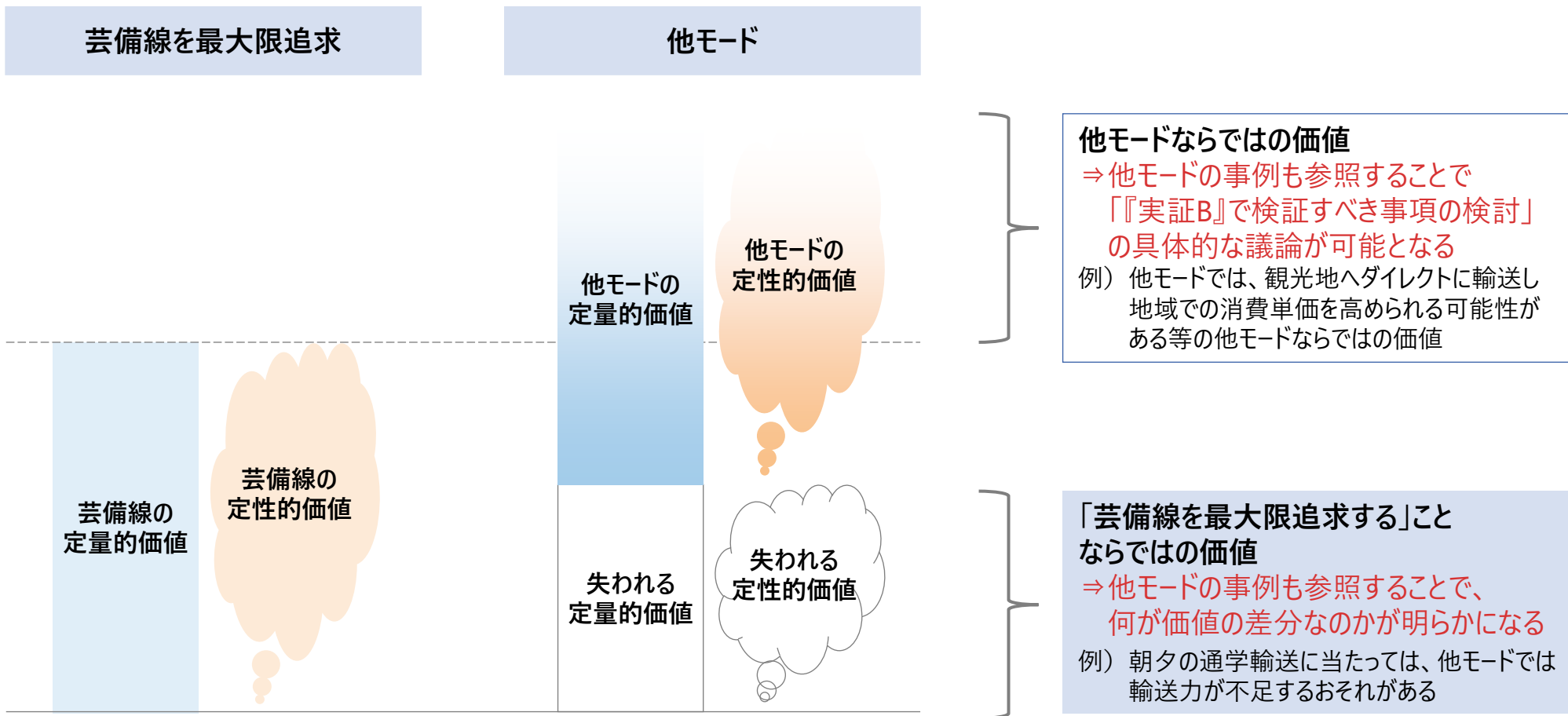
総合的な分析のイメージ



(3) 総合的な分析の実施

鉄道の役割や価値は、他の交通モードとの相対比較で現れる要素もあり、また、実証Bで検証すべき課題の抽出も見据えて、事例調査対象に「他モードでまちづくり・観光と連携した事例」も加えてはどうか

「芸備線を最大限追求」する取組をとりまとめる視点



		R5年度		R6年度		R7年度						R8年度～																		
				上半期		下半期		※協議状況等により内容・時期の変更の可能性あり																						
開催	3/26 第1回 協議会		5/16 第1回 幹事会		7/10 第2回 幹事会		10/16 第2回 協議会		12/25 第3回 幹事会		1/29 第4回 幹事会		3/26 第3回 協議会		5/19 第5回 幹事会		7月 第4回 協議会		8月 第6回 幹事会		10月 第7回 幹事会		11月 第5回 協議会		1月 第8回 幹事会		3月 第6回 協議会		R7年度と同様に開催	
	←協議開始から3年以内を目安に再構築方針を作成→																													
協議内容																														
※このスケジュール案は、協議開始から3年以内を目安とした再構築方針作成に向けて、今後進めるべき議論のスケジュールの方向性を示すものとして、中国運輸局が幹事会において構成員に提示するもの ※この案をもとに構成員間で今後議論していくことについて、共通認識として構成員間で一致する ※ただし、協議状況等により内容・時期の変更の可能性があることが前提																														
住民等意見聴取（調査事業において実施）																														
方針決定																														